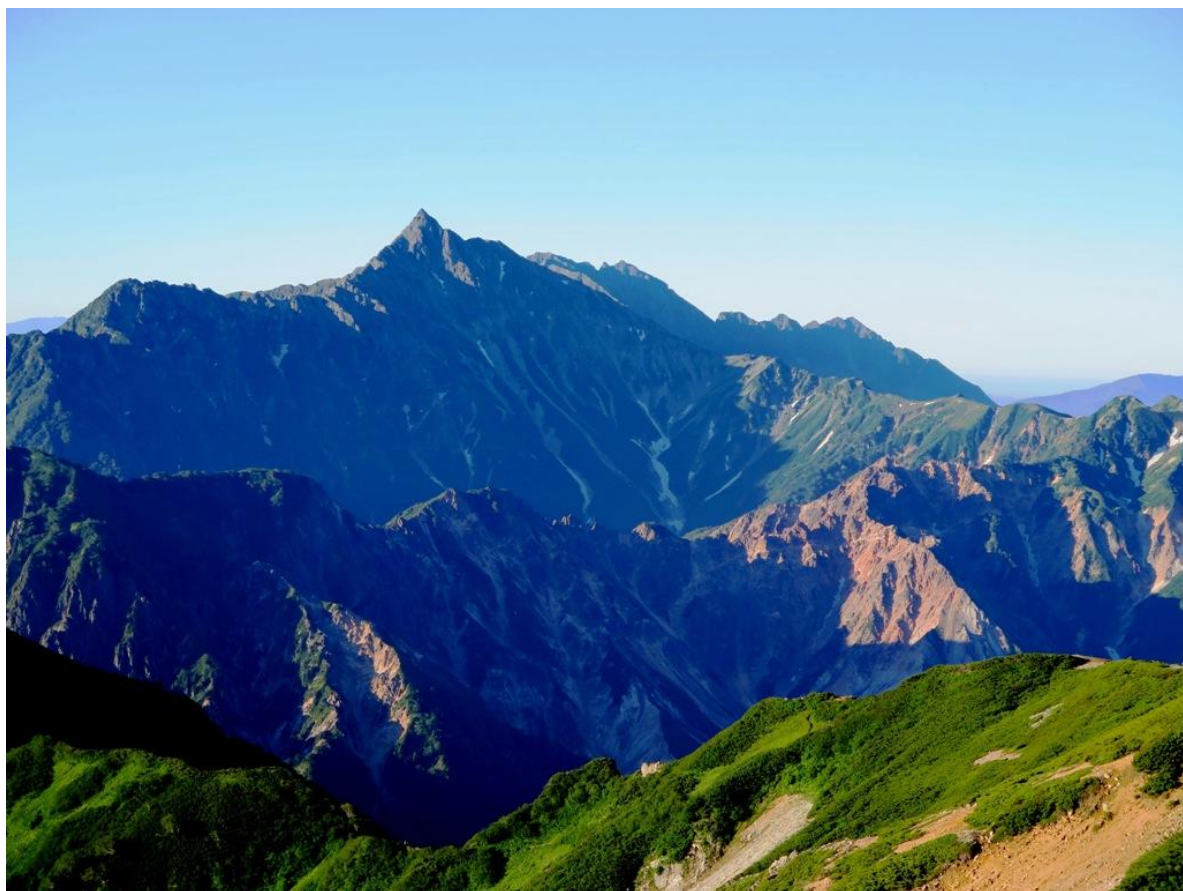


2015. 7北ア裏銀座縦走山行記録

記 鳥切昇治



山 域:北アルプス 裏銀座縦走 野口五郎岳から朝の槍ヶ岳と穂高連峰

期 日:2015年7月30日(木)~8月3日(月)

メンバー:鳥切 昇治(75才)単独

行動記録

針ノ木峠から水晶小屋間の後立山南部と裏銀座コースは、今迄山行計画をしてみたものの歩いた事が無い。歳を重ね実現が次第に難しくなって来ている。安全登山と完走の実現性を検討し、七倉から船窪小屋に入り、新穂高に抜ける4日間で歩いてみる事にした。初日に自宅から船窪小屋まで入る検討をしてみたが、無理をしないで七倉で泊ることにした。小屋泊りとは言え、真夏でしかも長丁場の縦走である。現在の体力を知る良い機会でもあった。今回の山行は入山と下山地が異なるのでマイカーは使えない。ネットで調べ、電車で行く事にした。

7月30日(木) 天候:晴 自宅~七倉

電車での山行は久々である。湘南新宿ラインで新宿に行き、新宿から特急「あずさ」に乗る。あず

さ13号の自由席は3～5号車で発車時は席が結構埋っていた。家族連れが多い。松本から大糸線に乗り換え、信濃大町駅に定刻に到着した。待合室で20分程待つ。名前を呼ばれて乗合タクシーで七倉に向う。乗合タクシーは予約制で乗客は一人だった。七倉は葛温泉の奥にあり七倉ダム堤体の左岸側に位置する。



七倉山荘



山の神トンネル入口



七倉の広い駐車場

宿泊する七倉山荘は駐車場内の七倉ダム側に建っている。駐車場は広く、結構車が駐車している。宿にチェックインしてから、明日の船窪小屋への登山口を確認して来る。監視ゲートを抜け、橋を渡って、山の神トンネル入口の右に登山口(標高約1100m)はあった。山行計画書を黄色のポストに入れて戻る。

七倉山荘は温泉で、露天風呂に入っていた若者と話をしたら船窪小屋のアルバイトの方で、先程下山して来たとのこと。船窪小屋の情報を色々聞いた。夕食は屋外のテラスでバーベキューだった。これで十分に栄養補給が出来た。明日は暑くならないうちに船窪小屋まで登りたい。今夜は涼しく寝られそうだ。

コースタイム

自宅 9:17～大船 9:43～10:34 新宿 11:00～(特;あずさ13号)～13:46 松本 14:09～15:03 信濃大町 15:30～(乗合タクシー)15:50 七倉(七倉山荘泊)

7月31日(金) 天候:晴 七倉～船窪小屋

ボリュームがある朝食を5時前に摂る事が出来た。食糧と水でザックは結構重い。昨日確認しておいた登山口から登山道に入る。七倉沢に沿って少し歩いてから七倉尾根に取付く。雑木林の急登を1ピッチ登るとベンチがあり一休みする。

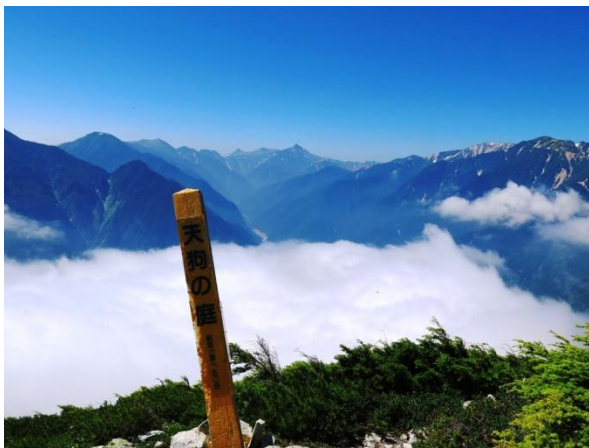
賑やかな話声がする先行パーティに追いついた。3人(男:1人、女:2人)のパーティだった。この3人には船窪小屋でお世話になる事になる。お先にと先に行く。尾根に出て少し下ると「唐沢のぞき」の表示板の所に出た。右下をのぞいたが唐沢は木の繁みで見えなかった。針葉樹林帯を



1ピッチ登った所のベンチ

下って又登る。鼻突八丁の急登を登り切ると樹林を抜ける。標高は2121mを示していた。暑い尾根歩きになる。

天狗の庭の標識がある場所に出た。槍ヶ岳が左に見え、特徴的な烏帽子岳から野口五郎岳の稜線が見渡せる。明日はあそこを歩くのかと



天狗の庭から槍ヶ岳

思いを馳せる。這松の尾根を登って行く。右を見ると北葛岳、蓮華岳が見える。青い屋根の小屋が目に入って来た。船窪小屋の様だ。思いの外早く着いた。小屋の入口の前に若い女性がい



船窪小屋が見えて来た

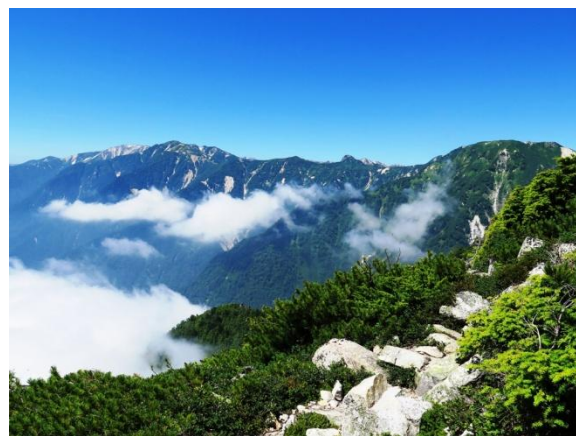
なるか不安になる。修理しながら歩くしかないと腹をくくる。

靴底を靴紐で縛る→

小屋の一番奥の右側に場所を取る。入口の部屋は囲炉裏があってランプが吊り下っている。外のテーブルで景色を眺めながら昼食にする。追い越した3人パーティが到着した。話を交わす。



鼻付八丁と呼ばれる急登が始まる



烏帽子岳から野口五郎岳の稜線(右手前は不動岳)

て山菜を仕分けしていた。挨拶をしたら宿泊の一番乗りだそう。お茶を淹れてくれた。昨日は宿泊者が多かったが今日は少ないと言う。外で靴を脱いでいると、何と左足靴底の踵のゴムが剥がれているではないか。右足の靴を見ると此方も一部剥がれている。まだ初日だと言うのにエライ事になった。出発前に点検し、剥がれていた前側は修理して来たが、ここまで剥がれるとは想定外だった。一応修理用具(靴紐とテープ)は持って来たが、後3日間の縦走でどう

午後の時間はタップリあるので七倉岳と明日の水を確保する為水場まで往復することにする。剥がれた靴底を靴紐で縛り出発する。七倉岳(2509m)には10分程で到着。眺めが良い。携帯電話の電源を入れたらアンテナマークが立ったので家に状況報告をする。水場には一旦分岐まで戻り、船窪乗越方面に下る。テント場から更に左方向に下る。この水場は最も危険な水場だと言わ



崩落した急斜面に水場



ガレ場の水場



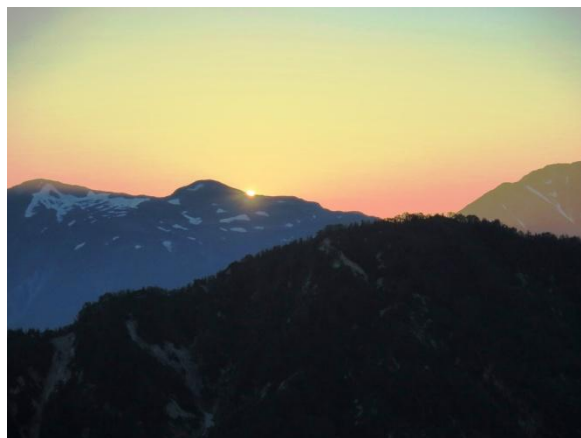
七倉岳山頂で(後方は蓮華岳)

れているようだ。崩落した急斜面を、フィックスロープを伝って水場を下りる。湧き水は冷たくて美味しかった。水嚢とペットボトルに水を入れてから、顔と体を洗う。気持ち良くサッパリした。暑い中、船窪小屋まで登り返す。

部屋に戻ると先程の3人が居て、汲んで来た冷たい水をご馳走する。3人は九州大分の九重から来たそうで「くじゅうネイチャーガイドクラブ」の公認登山ガイド(甲斐さん、藤田さん他)の方達だった。明日は野口五郎小屋まで行くと言う。靴底が剥がれた事を話すと、持って来たプラのバンドとビニールテープを分けてくれた。これで心強くなった。コーヒーを飲みたいと言うので外に出て、汲んで来た水で湯を沸かし、4人で飲む。九重の話聞く。

部屋に帰ると彼女達は明日以降の予定を変更する(船窪乗越～平の渡し～五色ヶ原～室堂)と言う。野口五郎小屋の宿泊予約をキャンセルしていたのでその1名分の予約を譲ってもらう。烏帽子小屋の予定を野口五郎小屋に変更だ。(早朝発にするため、朝食を弁当に変更してもらった)

私のガラ携は繋がらないのに、部屋の中でスマホとタブレットでネットや宿泊予約をしている。聞く



船窪小屋から五色ヶ原の右に沈む太陽



船窪小屋が夕日に照らされる

とドコモだと言う。AUはダメだね。

心尽くしの夕食は美味しかった。五穀米のご飯はお代りした。夕食後、夕日が沈む景色を眺める。今夜は満月だそうだ。7時からネパール紅茶とビデオ観賞があった。



心尽くしの夕食



囲炉裏とランプが灯る部屋でビデオ観賞

コースタイム

七倉 5:43～(6:40～6:50 休 1415m)～唐沢のぞき 7:30～(7:43～7:50 休 1625m)～(8:43～8:50 休 1915m)～9:28 樹林を抜ける～(9:45～9:55 休 2260m) 10:40 船窪小屋(泊) *七倉岳・水場往復(12:30～13:30)

8月1日(土) 天候:晴 船窪小屋～不動岳～烏帽子岳～烏帽子小屋～野口五郎小屋

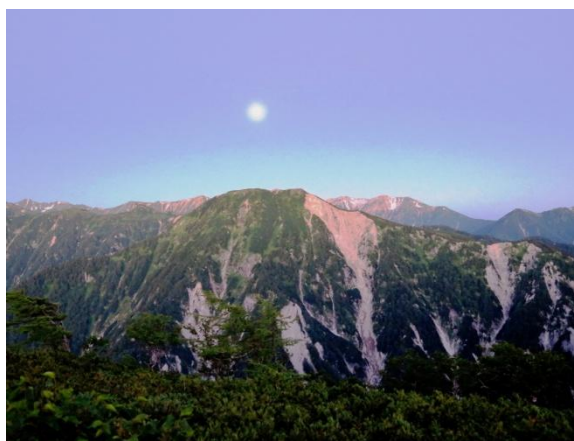
剥がれた靴底を靴紐で縛り日の出前に小屋を出発する。東の空が赤く焼け、不動岳の上空には白い月が輝いている。船窪乗越まで一気に下る。不動沢側は崩落で滑り台の様で怖い。慎重に下る。



不動沢側は崩落で滑り台



船窪乗越



不動岳上空の満月

船窪乗越から船窪岳に登り返す。針葉樹林の中、アップダウンを繰り返す。下りは滑落しない様注意を払う。不動岳まで船窪小屋を出発してから4ピッチ、順調に歩いて来た。振り返ると馬蹄形に歩いて来た格好だ。不動岳(2595m)からの眺めは実に良く、右手に薬師、後ろに立山、剣、針ノ木、蓮華、左に表銀座の山々に続く槍ヶ岳、前方に烏帽子岳から野口五郎岳に続く稜線、その奥に水晶岳と素晴らしい眺め。後から来た人に写真を撮ってもらう。



不動岳手前から歩いて来た稜線を振り返る(後方は針ノ木岳)



不動岳山頂で

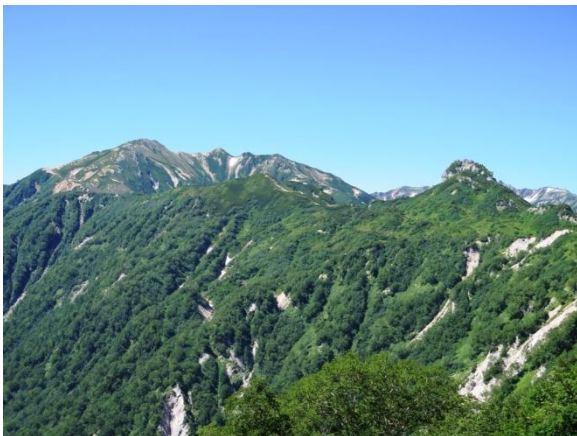
南沢乗越まで下り、登り返すとなだらかな山頂の南沢岳(2625m)。山頂を過ぎると、特徴的な烏帽子岳の左手に池が見え、そこに向って下る。砂礫地にコマクサが沢山咲いている。株が小さい



南沢岳から烏帽子岳と烏帽子田圃



可憐に咲くコマクサ



烏帽子岳から野口五郎岳に続く稜線



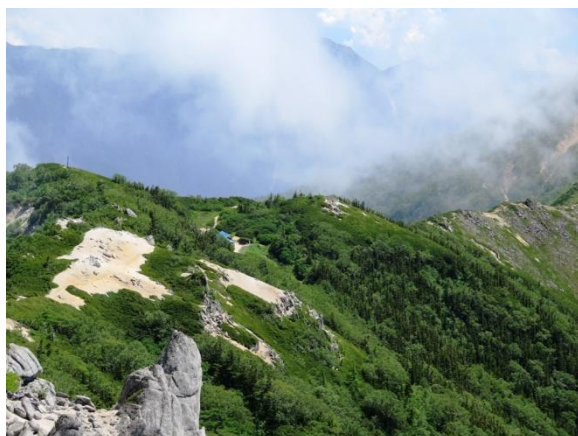
烏帽子岳分岐から烏帽子岳

ので種を播いたのだろう。烏帽子田圃と言われる草原の中に池が見える。チングルマ等が咲くお花畑は疲れた体を癒してくれる。烏帽子田圃を通り、烏帽子岳分岐にザックをデポして烏帽子岳

に登る。烏帽子小屋の方から烏帽子岳に登りに来る人達が多い。烏帽子岳(2628m)の頂上は岩峰で狭く、写真を撮ってから烏帽子岳分岐まで引き返す。前烏帽子岳まで緩やかに登って行くと烏帽子小屋の青い屋根が見えて来た。烏帽子



烏帽子岳山頂



前烏帽子岳の下りから烏帽子小屋



烏帽子小屋

小屋は登山者が多かった。ここで空腹を満たすため五穀米のおにぎり食べるがなかなか喉を通らなかった。

1時を回っていたのでノンビリしている訳には行かない。野口五郎小屋まで3時間以上歩かなければならない。疲れているが体調は良いので野口五郎小屋に向う。然程急ではない登りがきつい。三ツ岳を捲いて下って行くと雪田があり、雪融け水が流れている。喉を潤す。冷たくて活き返る。水囊を出して水を汲む。

水を飲んでから急に正気が戻った様でピッチが上がり、野口五郎岳が次第に大きくなって来た。左下に青い屋根の野口五郎小屋が見えて来た。やれやれ長い一日だった。剥がれた靴底を縛った靴紐は切れずにもっている。

小屋の宿泊者は30名程度と少なく、今夜もユツタリと寝られそう。外の自炊エリアで汲んで来た水を沸かしてコーヒーを飲む。話し相手はいないが至福の時間だ。この標高は2900m弱。寒い位だ。明日も長丁場だが頑張ろう。

夕食後外に出ると東の空の広い範囲にモクモクと積乱雲がここより高く発達していて、所々で稲光がしている。大町から松本にかけて猛烈な雷雨になっているそうだ。積乱雲が夕日に照らされて輝いている。まるで天体ショーを見ている様だ



野口五郎小屋



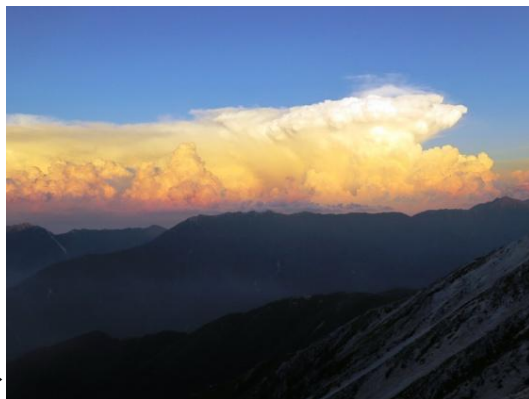
野口五郎小屋の夕食

った。

コースタイム

船窪小屋 4:33～船窪乗越 5:13～5:43 船窪岳～
9:03 不動岳 9:10～10:41 南沢岳 10:50～11:40
烏帽子岳分岐 11:55 烏帽子岳 12:05～12:18 烏帽
子岳分岐 12:40～12:58 烏帽子小屋 13:21～16:
20 野口五郎小屋(泊)

発達した積乱雲が夕日に照らされる一



8月2日(日) 天候:晴 野口五郎小屋～水晶小屋～鷲羽岳～双六小屋～鏡平

昨夜は隣の奇妙なイビキで熟睡出来なかつた。野口五郎岳山頂へユックリと歩く。石を積み上げた上に真新しい山頂の標識が建っている。野口五郎岳(2924m)山頂からの眺望は、360°で素晴らしい。



野口五郎岳から槍・穂高

いくつか超えアップダウンを繰り返す。真砂岳を過ぎて岩がゴロゴロした所は反応が鈍く、足の置き場に苦労する。剥がれた靴底を縛った靴紐が2度切れた。縛り直して歩く。岩の道は切れ易い。



トウヤクリンドウ

珍しいトウヤクリ



野口五郎岳の山頂

赤茶けた色の所にある水晶小屋まで、これから歩く稜線が続く。野口五郎岳から下って稜線を快適に歩く。朝の光を浴びた山々の景色を眺めながらの稜線歩きは足取りも軽くなる。ピーを



野口五郎岳からの縦走路(正面は鷲羽岳)

ンドウを見付け写真を撮る。この時期に咲いているのを見たのは始めてかな？

東沢乗越から赤茶けた急斜面を登る。ウサギギクとタカネシオガマが群落して咲いていて疲れを癒してくれる。



急斜面に咲くタカネシオガマ



水晶岳が近くなって来た



水晶小屋から歩いて来た縦走路を振り返る

登り切って水晶小屋の前からワリモ岳方面に下る。行き交う登山者が多くなる。水晶岳へ登る人達だろうか。



水晶小屋に到着

岩苔乗越方面と別れワリモ岳へ登る。ワリモ岳から下る。岩がゴロゴロした所でペンキの標識を見失い、時間をロスする。歳だねと照れ笑いする。



三俣山荘前から鷲羽岳



鷲羽岳山頂で

鷲羽岳(2924m)は久し振りだ。山頂で写真を撮ってもらう。下りは40分程で三俣山荘に着いた。小屋前の水道で水を飲む。水囊の水も入れ

替える。一休みしてから三俣峠に登る。暑くなって来たのとガス欠でピッチが上がらない。ようやく三俣峠に辿り着く。高山植物が綺麗な捲き道に入る。しばらく下り、雪融け水が流れている所で大休止する。



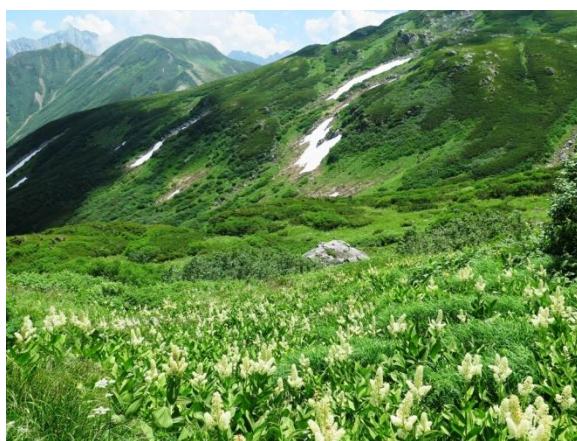
雪融け水が流れている所で大休止

カールのお花畑はシナノキンバイ、ハクサンイチゲ、コバイケイソウが咲いている。食事をしながら眺める。静かで時間が止まっている様である。

エネと水分を補給したら元気が出て来た。双六のカールの雪解け水が勢いよく流れている沢を渡り急坂に登る。ピッチが戻り、1時過ぎに双六小屋に着いた。この調子なら鏡平まで十分行けそうだ。夕方の鏡池に写る槍、穂高の写真を撮りたい。双六小屋で鏡平山荘の宿泊予約を



三俣峠



カールに咲くコバイケイソウ



双六小屋



クロユリ



弓折岳分岐から槍ヶ岳

する。公衆電話で家に電話する(46秒で200円)。テント場は色とりどりのテントで花盛り。テント場横にクロユリが一杯咲いていた。稜線まで登る。槍が午後の陽を受けてりりしく聳えている。槍・穂高を眺めながら歩く。花見平のお花畑は、今年は遅かったのか花数が少なくガッカリする。ハクサンイチゲは沢山咲いていた。

日曜日のせいか登って来る登山者が非常に多い。弓折岳分岐から鏡平に下る。鏡平山荘に3時半頃到着。今日も良く歩いた。靴は何とかもっている。寝る場所は大部屋だが布団1枚分の巾があり楽に休めそう。外のベンチで湯を沸かしてコーヒーを飲む。

鏡池まで行って池に写る槍・穂高の写真を撮る。鏡平山荘の夕食はおいしかった。



鏡池に写る夕方の槍ヶ岳

夕食後、夕焼けの槍・穂高の写真を撮ろうと思っていたがガスが出て、残念ながら撮れなかった。



鏡平山荘



鏡平山荘の夕食

コースタイム

野口五郎小屋 5:31～5:45 野口五郎岳 5:51～7:58 水晶小屋 8:03～9:28 鷲羽岳 9:36～10:16
三俣山荘 10:25～11:05 三俣峠～(11:24～11:52 大休止)～13:10 双六小屋 13:25～14:25 花
見平 14:37～弓折岳分岐～15:25 鏡平(鏡平山荘泊)

8月3日(月) 天候:晴 鏡平～新穂高～帰宅

涼しい内に下山しようと、朝食後鏡平山荘を出発する。鏡池で池に写る槍・穂高を撮る。ストックをたたみ快調に下る。秩父沢を過ぎる辺りから登って来る登山者が多くなる。小池新道入口から林道に出てわさび平小屋に着いた。



小池新道入口から振返る



鏡池に写る朝の槍・穂高

手をする人はいないが、お疲れ様。靴は何とかもって助かった。

(帰路)

予定より1台早いバスに乗れ、平湯に出る。日帰り温泉で汗を流そうと思っていたが時間が早くて開いていないだろうと、松本行きバス時刻を見ると15分後にある。急いでチケットを買い、トイレで着替えをしてバスに乗り込む。

リクライニングシートを一杯に倒して寝ている複数のアメリカ人？と思われる外人のマナーが悪い。後ろの席が座れない。バスは月曜日のせいか渋滞も無く、松本バスターミナルに着いた。松本バスターミナルから松本駅までは近い。時刻表を見ると次の特急は50分後である。時間つぶしに駅ビルを回り、駅弁を買ってホームに入る。特急スーパーあずさ14号の自由席(2両)は新宿まで空いていた。湘南新宿ラインで大船に着き、3時頃自宅に帰って来た。

コースタイム

鏡平山荘 4:57～6:00 秩父沢 6:05～6:39 小池新道入口～わさび平小屋 6:55～7:45 新穂高 7:
56～8:30 平湯 8:45～10:07 松本バスターミナル～松本 11:08～(特;スーパーあずさ14号)～13:
33 新宿 13:45～14:36 大船～自宅

以上